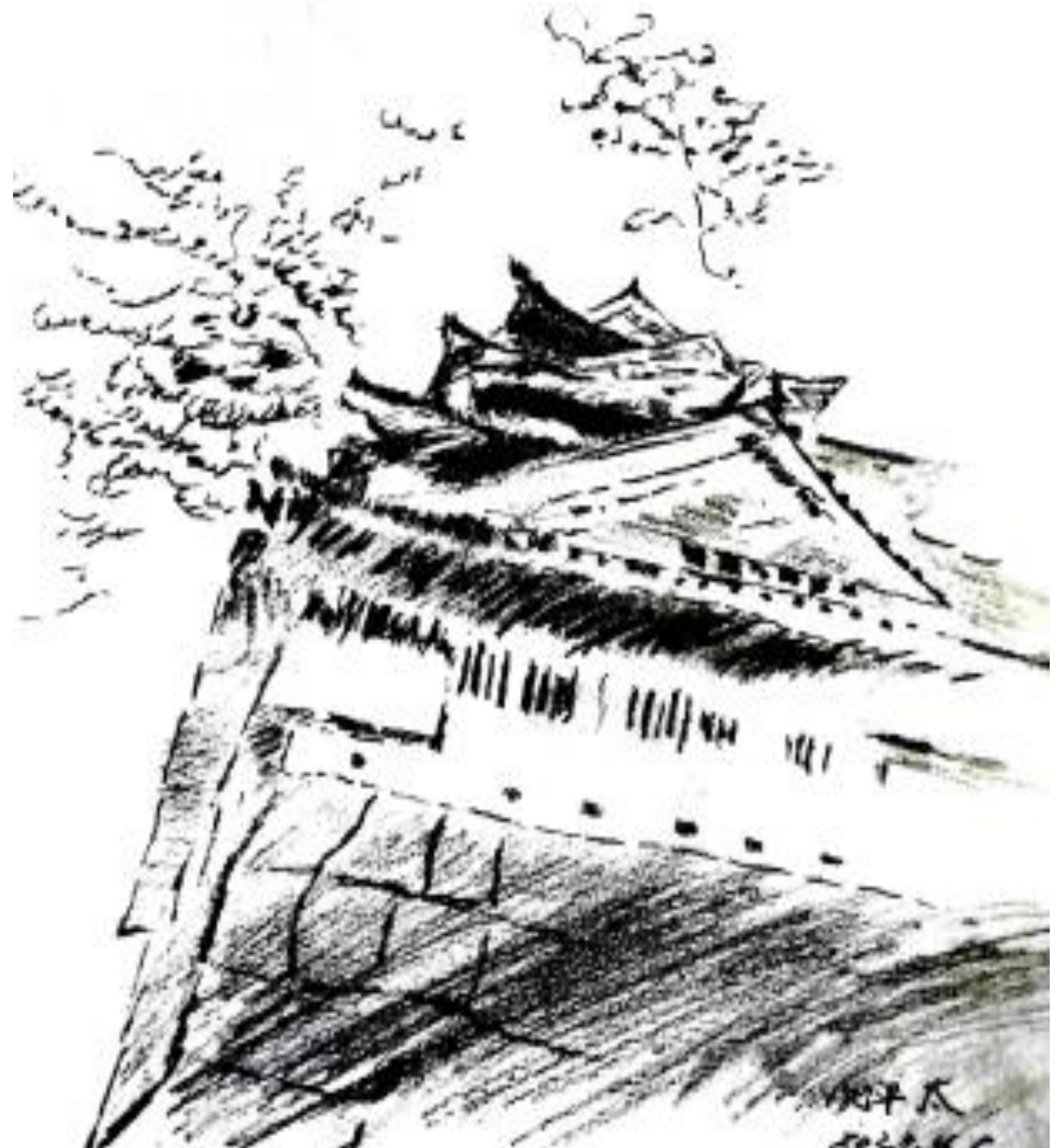


閣守天柳川

2023年9月号



第6回例会 2023年9月15日(金)

投句締切分

お題 「歩」

真鍋心平太 選

年輪を重ね進歩を止めぬ木偶	島根写太
夕カアシガニの足跡残す水中遺跡	小林満寿夫
あの雲を道連れに果てなく歩もう	波部珀兎
歩を重ね重ねて未来切り開く	久世高鷲
ペンギンの歩幅で歩く運命線	平川柳
エベレスト登頂もまずは一歩から	江崎紫峰
仲間との歩調はたいがいにしとこ	信子
立ち止まると忘れてしまう歩き方	船木しげ子
成功を目指し踏み出す先ず一歩	井澤壽峰
(五客)	
佳5 今日もまた昭和へ帰る母の下駄	船木しげ子
佳4 加齢かなよろよろ歩く野辺の道	江崎紫峰
佳3 どん底を歩いた俺も靴も老い	平川柳
佳2 歩く姿父に似てきたらしいけど	信子
佳1 まず一歩そしてリハビリ二歩三歩	山野寿之

(三才)

人 と金にはなれないままで職を退く 島根写太

地 隙間時間、歩いてポイ活する主婦で 波部珀兎

天 十五夜にマイケル見せる月歩き 青鬼堂一字

軸 上向いて歩く涙零れるまま 真鍋心平太

(選評)

人の句

と金にはなれないままで職を退いたからどうだとは句ではなにも言っていない。その先がまだ数十年あるからだ。その先の過ごし方でいかようにも変わるのだと作者は言っているように感じた。

地の句

ポイ活とはポイントを集める活動のこと。閲覧したり、買い物をする。ポイントが貰えるサイトが多々ある。かつて1円安い卵を求めてスーパーをはしごしたのと根本は同じである。かたちはずいぶん変わったけれどそこに人生があるのは変わらない。

天の句

マイケルは見てもせん方ない夢をみた。白い肌になれなかった。だから彼は此処を捨てて月を歩く。掴んだ夢は何だろう？荒唐無稽なアメリカの夢。あの見惚れるようなムーンウォークが悲しい。

お題 「柔」

互選

1点

柔らかな心に毒の針を刺す
赤ん坊ふつくら頬に押ししてみる
東京の友の柔軟聞き取れる
お色気に軟剤液を足してみる
戦争のはらわた内蔵する軍港

ルイ
ルイ

武智三成

船木しげ子

平川柳

信子

波部珀兎

江崎紫峰

岩原一角

波部珀兎

井澤壽峰

信子

武智三成

青鬼堂一宇

平川柳

江崎紫峰

真鍋心平太

山野寿之

島根写太

山野寿之

2点

柔らかい黒髪今もある自慢
時めいていた荒川、反り返るイナバウアー
柔らかい言葉の奥に有る悪意

信子

武智三成

青鬼堂一宇

平川柳

江崎紫峰

真鍋心平太

山野寿之

島根写太

山野寿之

3点

永らえて六分の柔をやつと知る
ちよつと待てその鬼心柔らかく
柔らかな風に抱かれて虹跨ぐ
柔らかな心で包む避難の子
柔らかい乳房五つに子が五匹
優しい人の手が柔らかい温かい
柔軟剤入れても効き目ない夫
固い話が柔らかなる酒二合

4点

通常は天狗の鼻は柔らかい
口にしているのは柔らかいスルメ
柔軟な姿勢の中にある決意

5点

柔らかく煮てるレイテの鉄兜
やわらかく見守っているパンの耳
ワルツでお経ふわり盃蘭盆

6点

反抗期を鎮める母の剛と柔
柔らかく母の扇子は風を呉れ

7点

柔らかな里の訛りに絆される
柔らかく町屋で交わす京ことば

10点

得点があるものをすべて点数順に掲載しています。得点
が空白のものは前行の句と同得点です。

小林満寿夫

小林満寿夫

井澤壽峰

真鍋心平太

船木しげ子

春田敏晴

加山勝久

島根写太

久世高鷲

加山勝久

今月の投句者（16名）

※太字の方は初参加です。

久世高鷲

井澤壽峰

信子

加山勝久

波部珀兎

山野寿之

岩原一角

島根写太

平川柳

春田敏晴

武智三成

ルイ

江崎紫峰

小林満寿夫

真鍋心平太

青鬼堂一宇

来月は今月よりも1名でも多く、当面は30名を目標にしています。

ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

おじぎそう
含羞草

真鍋心平太

7月の早いうちから猛暑日が続き、七夕もへったくれもなく日本の四季は暑さの中ですからさびれて情緒のないものになってしまった。

いっさいががさつに、命はそれほど大事なものではなく、生き切らない青春や、壮年や老いが行き暮れている。かつてまほろばと呼ばれた北の大地はいまや放射能を含んだ土で赤くなり、台風は春先にも、梅雨にも夏にも、秋にもものべつ幕なくやってきて、その都度大雨を降らし、山を崩し、河を溢れさせ、家族や家を流し去る。そんな荒寥とした風景がこの日本のあちこちでこれでもか、これでもかと繰り返されている。この国の風土はいつからこんなに変わってしまったのだろう。

そんな中で変っていないなかったものがあり、嬉しくてこれを書いている。それは含羞草という野草。

私はずっと大阪守口に住んで居たのだが、子供のころは含羞草を道端でよく見かけた気がする。大人になってから、とんと見かけなくなり、半世紀ぶりに見かけたというか見る機会に恵まれたのは、なんと弟の家の庭に咲いていて、弟の好きな花だというのである。

死ぬまでにもう一度見てみたいと思っていた花が自分の弟の家の庭にずっと咲いていてしかもそれが彼の好きな花のひとつだったとは、なにか大切なものをひとつ見つけたようで、おおげさに言っていると、まだ人生捨てたものではないとそんな気持ちになったものである。

ところで、植物である含羞草が何故このような動きをするか、世界中で研究されても長年分からなかったのだが今年初めて埼玉大学で解明されたとのこと、それによると、危険信号を伝える仕組みがあり、虫に食べられないように体を縮かませるのだそう。

嫌だ嫌だ、まだ変わりたくない、枯れたくないとお願いをしているようで微笑ましく、今月の巻末の絵に描いてみた。

第6回 ウェブ川柳天守閣 ご案内

お題 「眺める」 真鍋心平太 選
「イコール」 互選
(投句 各 2 句)

投句開始 2023年9月9日(土) から
投句締切 2023年9月15日(金) まで

互選投票 投句締切後下記の期間内に投票して下さい。
9月16日(土)～9月19日(火)

披講発表 9月20日(水)から随時閲覧可能になります。

左記の投句、互選投票、結果発表の閲覧は
下記 URL から可能です。

http://excellan.kir.jp/ten_reikai/web_siyu_menu.php

投句、互選投票は会員登録が必要です。

会員登録は下記 URL より

http://excellan.kir.jp/ten_reikai/id_make.php

スマホは下記 QR コードから



投句・閲覧



会員登録



鉛筆画 心平太

(クリックすると大きくなります。)

二〇二三年八月二十五日発行

ウェブ川柳天守閣会報

(発行責任者 真鍋心平太)

(編集人 真鍋心平太)

(事務所)

〒 520-0054

滋賀県大津市逢坂一丁目8-1

サンルシエル大津607号室

川柳天守閣

TEL・fax 077(532)4211

携帯 080(2672)4446